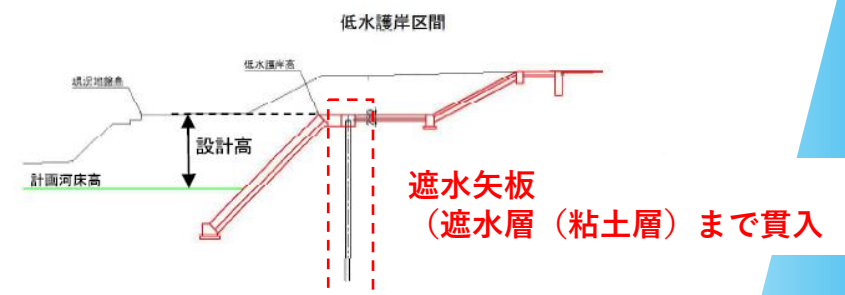
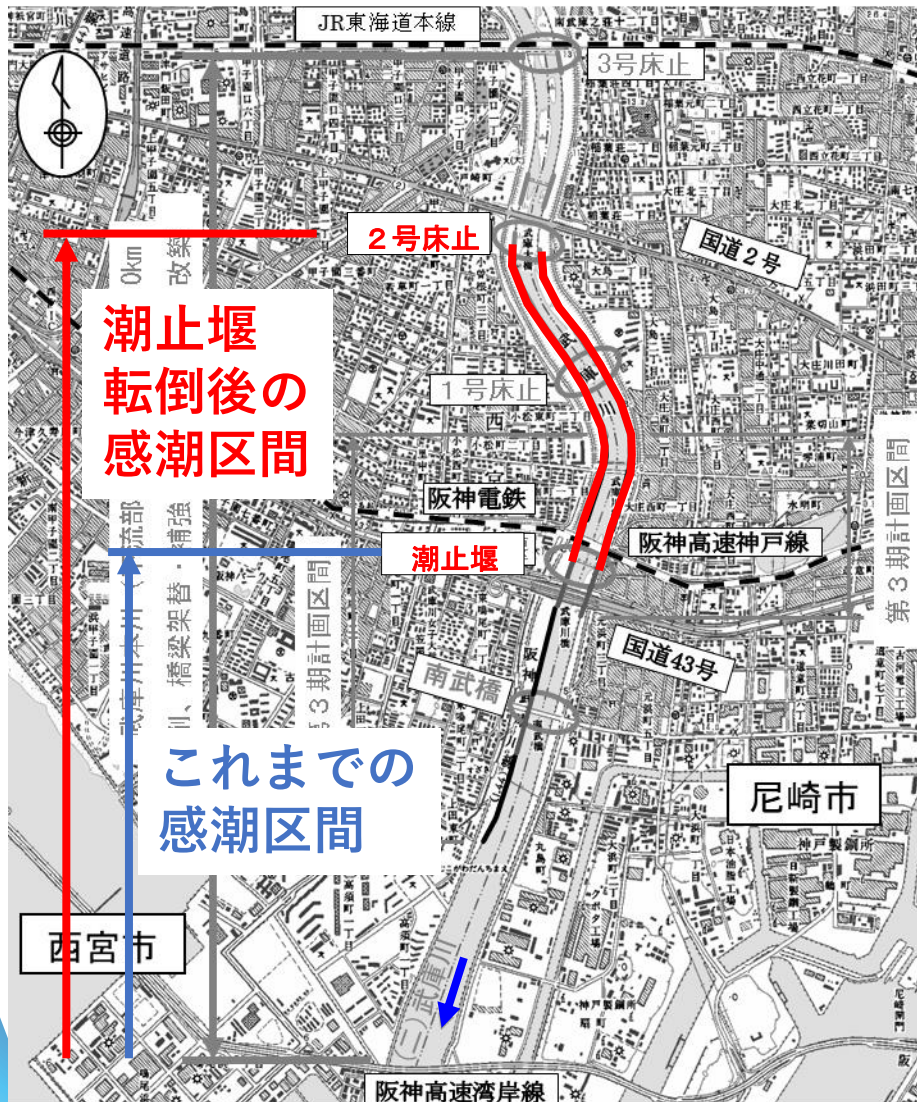


武庫川下流部築堤区間の進捗

武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会

武庫川下流部築堤区間の進捗

潮止矢板の設置完了

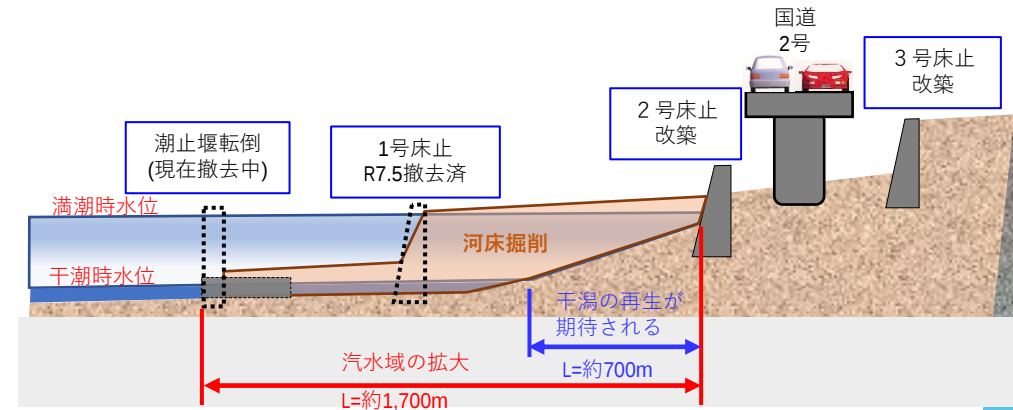


武庫川下流部築堤区間の進捗

潮止堰の転倒

● 潮止堰転倒による汽水域の拡大

- ・遮水矢板（海水の周辺への浸透防止）を海水が遡上する堰から国道2号付近まで約1.7km区間の打設を令和7年2月に完了したため、潮止堰撤去工事に先立ち潮止堰を転倒した。
- ・潮止堰が転倒したことで、潮止堰から約1.7km区間で汽水域が拡大した。
- ・今後、河床掘削により干潟の再生が期待できる。
- ・このような干潟の再生が都市部で起こることは珍しく、ゴカイやハゼなど汽水性生物の再生など、生態系の多様性が高まると期待している。



転倒前



転倒後



武庫川河口部の歴史

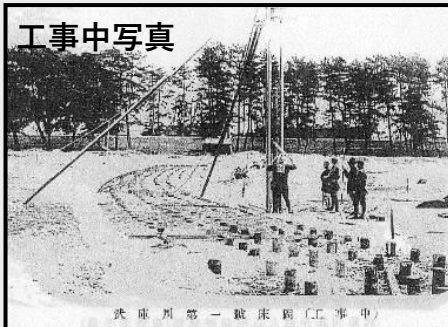
潮止堰の成り立ち（大正9年の大改修と昭和58年洪水を契機とした改修）

● 大正9年の大改修

“暴れ川”武庫川は、大正9年8月1日、河口から東海道線橋梁までの5.1kmについての改修と、派川の枝(えだ)川・申(さる)川を締め切り廃川とする工事を開始。

当時は、「第1号床固」として整備していたが、堰高が高く、実質的な潮止の構造を有していた。

工事中写真



完成写真



計画平面図



● 昭和58年洪水を契機とした改修

昭和58年9月には、台風10号と前線により洪水が発生。これを契機とし、昭和62年から、潮止堰から名塩川合流点までの河川改修に着手した。

これらの改修に併せて、洪水時の通水断面確保のため、潮止堰はコンクリート製から鋼製ゲートの可動堰に改築。

S58洪水(阪神橋梁付近)



現在の潮止堰（撤去作業前）



干潟再生による生物多様性への期待

● 干潟の機能

干潟は多くの水生生物の生活を支え、産卵や幼稚仔魚に生息の場を提供する以外にも、水中の有機物を分解し、チッソ・リンを吸収し、海水の浄化に大きな役割を果たしている。また、干潟に生育する植物により、二酸化炭素は吸収され、温室効果ガスの抑制にも寄与する役割が期待できる。

1. 水質の浄化
 - ・チッソ・リンの吸収による富栄養化の防止（微少藻類）
 - ・ろ過食性動物による有機物の除去（二枚貝類）
2. 生物多様性の維持
 - ・多様な生物種の保全（干潟固有の生物）
 - ・幼稚仔の保育場の提供
 - ・鳥類への餌場・休息場の提供
3. 環境学習（干潟生物・鳥類の観察）
4. 保養（潮干狩りなど）

